

BAB IV

SIMPULAN

4.1 Simpulan

Berdasarkan hasil analisis dengan menggunakan teori semiotika Pierce, penulis menyimpulkan terdapat 11 adegan di dalam film *Byousoku Go Senchimotoru* yang merepresentasikan *chinmoku*. Perilaku yang ditunjukkan dalam 11 adegan film *Byousoku Go Senchimotoru* tersebut menggambarkan konsep *chinmoku* yang biasa ditemui dalam kehidupan sehari-hari. Diantaranya:

1. *Chinmoku* dapat membuat seseorang berkembang. Ditunjukkan pada adegan saat Kanae melepaskan beban kebingungan yang menyelimuti dirinya dengan menerbangkan pesawat dalam keheningan. Dilanjut dengan Kanae yang berdiam diri di tengah ladang yang kemudian membuatnya menemukan keputusan untuk fokus melakukan satu persatu hal yang ia bisa. Bukan hanya Kanae, sang tokoh utama Takaki menemukan keputusan setelah ia diam menunggu kereta api melintas. Takaki membuat keputusan untuk meninggalkan masa lalu dan melangkah menuju masa depan.
2. *Chinmoku* dapat memahami perasaan secara mendalam. Dalam keheningan yang terjadi saat bertelepon, Takaki dapat merasakan kepedihan hati Akari. Adegan selanjutnya yang menunjukkan pemahaman emosi dengan mendalam yaitu pada saat Takaki dan Akari saling melampiaskan emosi yang bercampur dalam keheningan

setelah mereka bertemu di stasiun yang sudah dijanjikan. Selanjutnya, pada saat Takaki dan Akari berciuman di depan pohon sakura, Takaki menyadari bahwa ia tidak dapat bersama dengan Akari. Selanjutnya saat Kanae berjalan berdiam diri. Ia mengurungkan niat untuk menyatakan perasaan pada Takaki karena ia sadar ada sesuatu yang menghalangi untuk mereka dapat bersama, yaitu perasaan Takaki.

3. *Chinmoku* dapat menyebabkan salah paham. Ditunjukkan di menit awal saat Takaki menarik tangan Akari agar teman-temannya berhenti mengolok-olok namun justru berdampak semakin menjadi. Kemudian digambarkan melalui adegan saat Takaki merasa bersalah dan meminta maaf karena tidak menutup tombol pintu kereta. Takaki khawatir pria tua yang menekan tombol merasa kesal, namun pria itu tidak memperkarakan hal tersebut. Terakhir, saat kedua teman Kanae berpikir bahwa Kanae akan lanjut bekerja setelah lulus SMA karena ia belum memikirkan akan masuk ke universitas atau akademi manapun.

4.2 Saran

Film *Byousoku Go Senchimotoru* memiliki banyak makna mendalam baik dari segi kalimat maupun dari segi tindakan. Dalam penelitian ini, penulis hanya terfokus pada tindakan *chinmoku* yang dilakukan oleh tiap-tiap tokoh. Penulis menyarankan untuk mengkaji makna pohon sakura yang menjadi *icon* utama dalam film *Byousoku Go Senchimotoru*. Penulis juga menyarankan untuk meneliti tindak perilaku *chinmoku*

yang dilakukan oleh masyarakat Jepang, baik dalam komunikasi antar guru-murid di kelas ataupun dalam komunikasi dengan masyarakat lain secara luas.

要約

新海誠の映画『秒速5センチメートル』における沈黙概念の表現

アイナー ウル・マルジヤー (121711333055)

序論

沈黙は、日本の非言語的なコミュニケーション文化の一つである。日本社会においては、言葉なしで意思疎通ことができる（Ikeno & Davis、2002）。文化人類学者のエドワード・T・ホールによれば、文化によるコミュニケーションには、二つに区別され、すなわち高文脈文化(high-context cultures)と低文脈文化(low-context cultures)である。日本人は、非言語的なコミュニケーションをよく利用するので、日本は「高文脈文化」の区分に入っている。執筆者は、日本人における「沈黙」という非言語的なコミュニケーションに関心を持ち、新海誠の名作アニメーション映画『秒速五センチメートル』（2007）を通じて、登場人物の「沈黙」を考察する試みである。

アニメーション映画『秒速五センチメートル』における研究は、多くの研究者がすでに行われた。その中で、リナ・セティア・ラハユの論文「新海誠によるマンガ『秒速五センチメートル』の意味とストーリー内容との関係」

がある。リナが注目した点は二つあり、すなわち一点目は、ストーリーとしてはハッピーエンドで終わったこと、二点目は映画のタイトルのように、登城人物の関係の距離は 5 センチほど近いだけですが、遠くに感じてられる。しかし、リナの研究では、登場人物が自分の気持ちを抱いている理由と気持ちを正直に言えない理由については触れられていない。これは新海誠の映画『秒速五センチメートル』において重要なポイントだと考えられる。また、リナと執筆者の異なる点は、研究体裁となる作品の形である。すなわち、執筆者は 2007 年に公開された アニメーション映画『秒速五センチメートル』に対して、リナは、2010 年に公開された漫画という形の研究対象を選んだのである。しかし、話の内容が変わらない。

また、本研究において執筆者は、パース（Peirce）の記号論のを用いて、映画『秒速五センチメートル』の画像、シーン、会話、行動から現れる記号を分析し、そこに含まれる沈黙の表現を明らかにしたい。さらに、研究方法として、定性的方法で行う。本研究では、映画の物語に含まれている沈黙の表現を中心にするものである。

本論

デュルケームは、身体は社会生活に存在する社会的症状を示すことができると述べている。社会理論において、彼は、人生とは外部の現実として理解

されるだけでなく、個人の内部的な道德感に触れるアイデアの発展からも理解できると述べている (I.B. Wirawan, 2015 : 16) 。また、個人個人の異なるもの (性格、価値観など) から、グループおよび社会の精神というような一つの社会的な意識を生み出すことができると彼が主張している。日本社会において、その一つの形としては「沈黙」であるという。武藤理恵は、論文「言語活動における沈黙の意味: 沈黙は言語活動の停滞か」 (2013) の中で、沈黙はある文脈の中であるアイデアが生み出された時に成り立った状況であると述べている。武藤はまた、沈黙は人の心を新たにするという方法にもなると主張している。

映画『秒速五センチメートル』の中で沈黙を見せているシーンは全部で 11 ある。その一部は、こちらで紹介したい。一番目は、シーン時間 00 : 36 : 30 に花苗が紙の飛行機を飛ばして、彼女の包み込んだ混乱の重荷を解放したときである。そして、シーン時間 00:39:26 に、花苗は自分のできることを一つずつやることに集中していることである。2 番目は、シーン時間 00:59:37 に、貴樹が過去を忘れて、将来を向って歩み始めたことを決めたときである。これらの沈黙の意味は、「自己啓発」或いは「自己成長」という意味で、沈黙がスタートポイントとして使用されていると考えられる。

そして、沈黙も「周囲に理解させる」という意味も持っている。例えば、一番目は、シーン時間 00:10:40 に貴樹が電話の中で明里の痛みを感じたときである。そして、2 番目は、シーン時間 00:20:00 に、貴樹と明里が沈黙の中で彼らの感情を混ぜ合わせたときである。3 番目は、シーン時間 00:22:43 に、貴樹と明里がキッスする時、貴樹は明里と一緒にいられないことに気づいたことである。4 番目は、シーン時間 00:46:40 に、花苗は貴樹を告白するのを思いとどまらせる感情があるときに花苗は、貴樹にどんなに近づいても、貴樹の気持ちという、一緒にいられない何かがあることに気づいた。5 番目のシーンは、00:49:22 に貴樹が電車の交差点で彼を追い越した女性が引き返すと信じていることに示され時である。そして、後で女性も振り返ったことが示されている。

また、沈黙の行動は、他人に誤解させるという恐れもある。このような他人の誤解を招くというシーンは、例えばシーン時間、00:08:04 で、明里を助けるために貴樹が彼女の手を握って教室から逃げ出した。しかし、その行動を見た同級生たちは、貴樹と明里は特別な関係を持っていると思っているようである。次はシーン時間 00:12:30 で、老人が電車のドアのボタンを押した時に、貴樹は老人が怒っていると思って謝りをした。そしてシーン時間 00 : 28 : 23 で、花苗は同級生たちに卒業後の進路について聞かれたときに何も答えなかったのも、彼女たちは花苗が就職するのではないかと思われたのである。

結論

パースの記号論を用いた考察に基づいて、アニメーション映画『秒速五センチメートル』11 シーンが「沈黙」表現を持っていることが明らかになった。それらのシーンに含まれている沈黙概念の機能と影響は 3 つのカテゴリーに区別される。それは、まず、沈黙は、「自己啓発」或いは「自己成長」になる。そして、沈黙は相手及び他人の理解を求める。最後に、沈黙は相手及び他人の誤解を招く恐れがある。以上、三つのカテゴリーに分かれる。

しかし、上述した 3 つのカテゴリー以外、沈黙の機能はまだあるのか。また、日本人の「沈黙」は、外国人にとってどのように思っているのか、すぐに理解できるのか、様々な問題点がまだ残っている。これらの問題点は今後の研究課題にしたいと思う。